**第１学年○組　道徳指導案**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　日　時：平成２７年　　月　日（　）第　校時

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　場　所：１の　教室　　指導者

**１　主題名**　ともだちとなかよく　　Ｂ－９友情、信頼

**２　資料名**「およげないりすさん」　出典「わたしたちの道徳」　小学校１・２年

**３　主題設定の理由**

（１）ねらいとする価値

　　本主題は、内容項目Ｂ「主として人との関わりに関すること」の９「友達と仲良くし、助け合うこと」に当たる。よい人間関係を築くには、相手の存在を認め、相手のことを考える気持ちと、優しい心が大切である。また、互いに相手を信頼し、助け合い、励まし合って生活しようとする気持ちが必要である。しかし、自己中心性がまだ多く残るこの時期の子どもたちは、自分の思いが先に立ち、自分にとって都合のよいことを優先し

　てしまうことがある。そのため、学校生活の中で友達と協力したり、励まし合ったり、困っているときには助け合ったりしながら、仲良く生活しようとする態度を育てたいと考え、本主題を設定した。そして、その後の日常活動でも友達の良さを多く見つけ、仲良く行動できるようにしたいと考える。

（２）児童の実態

本学級の児童は、明るく活発な子が多い。学校生活にも慣れ、仲良しの友達も増えて交友関係にも新しい広がりができてきた。また、けがをした友達がいたり、給食のおかずをこぼしたり、困った友達がいるとさっと手を差し伸べたりするなど、助け合う姿も見られるようになった。帰りの会で日直が発表する「ぴかぴかさん」のコーナーでは、友達が頑張っていた所を多くの子が見つけ発表することができている。友達の良さを見つけることができる反面、日常生活ではその場の感情で相手のことを思いやれない言動や行動をしてしまい、トラブルになることもある。また、休み時間に友達が一人で寂しそうにしていても誘ったり、声をかけたりすることがなく、自分の好きなことをして過ごしている児童もいる。良かれと思って自分がとってしまった自己中心的な振る舞いは、時に相手を傷つけることがある。何かがあったときだけでなく、今後行われる遠足や日常生活の様々な場面で相手の気持ちを考え、行動してほしいと考えた。

（３）本時の資料について

本資料は、あひる、かめ、白鳥が池の中の島へ行こうとした際に、一緒に連れて行ってほしいと言うりすに対して「泳げないから、駄目」と断ってしまうところから始まる。ところが島で遊んでいても、りすのことが気になり３匹は楽しくないことに気付く。そこで３匹は話し合い、次の日、りすに昨日のことを謝り、りすをかめの背中に乗せて、みんなで島へ向かうという話である。友達関係ができ始めた児童にとって、友達の気持ちを思いやることは大切だということに気付かせることができる資料である。

本時では、まず一人ぼっちになったりすの気持ちに共感させる。次に、３匹の動物たちは、なぜりすがいないまま遊んでも楽しくないのかを考えさせ、りすを思いやる気持ち、りすがいないことへの寂しさ、りすにしてしまったことへの後悔がその理由であることに気付かせる。資料の後半はあえて示さず、前半でおさえたりすにしてしまったことへの後悔をふまえ、もう一度同じ場面になったときにどうするかを考えさせ、「友達」とはどういうものなのかに気付かせたい。そして、自分は友達と仲良くするためにどんなことをしたいかをワークシートに書き、その後1週間自分が「ぴかぴかさん」になれるように意識して行動するよう励ます。そして、自己評価させることによって、今後の友達関係をよりよくしていこうとする態度を育成したい。

**４　本時の学習**

（１）目　標

　　・友達の気持ちを考え、誰とでも仲良く助け合っていこうとする気持ちを高める。

（２）児童の取組（本校の学習方法）

・ステップ①

（３）本時における特別な支援を必要とする児童

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 対象児童 | 児童の実態・座席 | 本時における特別な支援 |
| Ａ | 落ち着きがなく、文房具等で遊んでしまうことがある。友達の発表に耳を傾けず、気になったことを挙手せずに発言してしまうことがある。  →北側から３列目、前から１番目 | ①意見をもち、挙手しているときには積極的に指名する。  ②ワークシートに書く活動の際には、考えが書けるよう助言をし、  　自信をもたせる。 |

（４）　準　備

教師：場面絵、ペープサート、センテンスカード、ワークシート

（５）　関　連

　　・遠足

　　・日常生活「ぴかぴかさん」

（６）　展　開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間 | 子どもたちの活動 | ・支援　◆評価 |
| ３    １２  ２３  ３８  ４３ | １　登場人物について知り、関係をおさえる。  ・りす、白鳥、あひる、かめ  ・友達  ２　お話を聞き、内容を確認しながらりすの気持ちを考える。  一人ぼっちになってしまったりすさんは、どんな気持ちだったかな。    ・みんなと一緒に行けなくて寂しい。  ・泳げなくて悔しい。  ・みんな意地悪だ。  ３　島で遊んでいる３人の気持ちを考え、話し合う。  ３匹が島で遊んでいても楽しくなかったのは、なぜかな。  （りすさんを思いやる気持ち）  ・りすさんのことが気になる。  ・置いてきてしまってかわいそう。  ・つれてきてあげればよかった。  （りすさんのいない寂しさ）  ・りすさんが一緒じゃないと、ぼくたちも楽しくない。  ・みんなで遊びたい。  （自分たちのしたことへの後悔）  ・りすさんにひどいことを言ってしまった。  ・島に来ないで、りすさんと遊べばよかった。  ４　しばらく時間がたち、同じような場面でりすさんに「ぼくもいっしょにつれていってね」と言われたとき、どうするか考える。  ３匹が島で遊ぶ相談をしていたとき、また、りすさんに「ぼくも一緒に連れていってね。」と言われたら何と言いますか。  ・りすさん、この前はひどい言い方し  ちゃってごめんね。  **→（優しい言葉であやまる）**  ・りすさんは泳げないから、池の方  　で遊ぼうね。  **→（思いやり）**  ・みんなで遊ぼうね。  ・りすさん、一緒に島に行こうよ。  **→（仲間外れにしない、仲良し）**  ・りすさん、ぼくの背中に乗ってよ。  **→（助け合う）**  ５　友達と仲良くするために、どんなことをしたいか考えて、発表する。  ・優しい言葉で話す。  ・仲間外れにしないで、みんなで遊ぶ。  ・一人でいる子に「一緒に遊ぼう。」  　と言って、みんなで遊ぶ。  ・けがをしている子がいたら、「大丈夫。」と優しく言う。  ６　教師の説話を聴く。 | ・本時の話し合いへの意欲を高めるた  　めに、登場人物をおさえ、りすの泣  　いている表情に注目させる。  ・資料の内容が捉えやすいように、場面絵を使い、語り聞かせながら資料を提示する。  ・りすの気持ちに共感させるため、場面  　絵を提示する。  　【特支①】  ・島で遊んでいても楽しくない３匹の  　気持ちに共感させるため、場面絵を  　提示する。  ・島で遊んでいても楽しくない理由の  中身が友情であることに気付かせるため、友達を思いやる気持ちと、友達と一緒でないと寂しいという気持ちと、りすさんへしてしまったことに対する後悔の気持ちとに分けて板書する。  ・りすのことを友達として大切に思っ  　ていることに気付かせるため、「なぜ、  　りすさんのことが気になるのか」等補  　助発問し、ねらいに迫る。  　【特支①】  ・次の発問にスムーズにつなげられる  　ように、４匹の動物たちの気持ちと  関係を確認する。  ・そのときの場面を想像しやすくさせる  　ため、どんな言い方がいいか登場人物  　になりきって話すよう指示する。  ・本時の授業で学んだことが振り返り  　で生かせるように、児童から出た意見を分かりやすい言葉に置き換えて板書する。  ・自己中心的な発言に固執している児  　童には、「自分がされたらどんな気持ちになるか」と補助発問する。  ・友達といる楽しさやうれしさを感じ、  　仲良く助け合っていこうとする心情  　を育てるため、「みんなで遊んでいる  　とき、４匹はどんな気持ちかな。」と  　補助発問する。  　【特支①】  ・身近な生活の場面でもたくさんある  ことに気付かせるため、早く書けている児童を指名し、発表させる。  【特支①】【特支②】  **◆友達の気持ちを考え、仲良く助け合おうという気持ちをもつことができる。**  **（ワークシート・発表の様子）** |